平成20年度渡子小学校校内研修（道徳教育） 兼 音戸中学校区小中一貫教育 授業交流

◆ 日 時　平成20年6月13日（金）13：40～16：30
◆ 場 所　渡子小学校5年生教室
◆ 参加者　渡子小学校教職員，音戸中学校区の校長及び教師等 19名

1 授業公開（13：40～14：25）

主題名	じっくりと考えて判断しよう（中心項目―２－（２）思いやり・親切） （関連項目―１－（２）希望
資料名	『手品師』 一部改作（出典：「きみがいちばんひかるとき」光村図書）
学習者	第５学年　男子９名　女子６名　計１５名

◆授業の概要
○ 導入・・・・・・・ビデオ視聴した手品師について想起し，資料への動機付けを行う。
○ 資料提示・・・プロジェクター，場面絵，短冊と語りで，場面状況を把握しやすくする。
○ 展開前段・・・①夢を叶えるために努力する手品師の様子と気持ちを考える。
②少年が明るさを取り戻した時の手品師の気持ちを考える。
③手品師は劇場へ行くべきか，男の子の所へ行くべきか一次判断を行う。
④ワークシートをもとにお互いの意見を発表し合う。（主要発問）
○ 展開後段・・・・二次判断をし，自分の判断について，理由を発表する。
○ 終末・・・・・・・・教師の話を聞く。

◆ 協議会
講師―東広島市立高美が丘中学校長　竹田敏彦 先生
○ 協議の柱――ジレンマ教材の効果的な指導方法について。
○ 道徳の時間では，個々の「道徳的なものの見方・考え方」を出させるとともに，それを段階的に高めることをめざした指導をすることが大切である。
○ 価値が深まるかどうかは，価値分析にかかっている。
○ 道徳性発達段階としての段階
Ⅰ段階　罰を回避する。（怒られるから）
Ⅱ段階　損か得か。同情。（かわいそう）
Ⅲ段階　よい子志向。（ほめてもらえる）

Ⅳ段階　ルールの遵守。（約束はやぶってはいけない）
Ⅴ段階　社会契約的遵法的志向。人権と社会福祉の道徳性。（悪法は正していかなければならない）
Ⅵ段階　普遍的倫理原則への志向。（法があろうがあるまいが，これをしなければ僕は人間としてダメになる）

○ モラルジレンマだからといって，結論はどちらでもいいでは，無責任なオープンエンドになる。今日の授業は，どちらに力点を置くかがいる。切り札は出さないが，結論はどうでもいい・・ではいけない。
○ 道徳とは，生き方の学習である。（しっかり教える・じっくり考えさせる・はっきり表現させる）
○ 道徳の授業では，価値にこだわった倫理的葛藤が大切である。
○ 展開の後段では，価値の一般化が必要である。（あなたは過去に手品師と同じように迷った経験はないか。その時どうしたか。）
○ 総合単元的な道徳学習の構想図では，道徳の時間は，５時間に1時間が基本である。１５時間の計画の中で，最低3時間の道徳をもってくる。
○道徳の時間の目標は，道徳的実践力の育成（道徳的心情・道徳的判断力・道徳的実践意欲と態度）にある。